

越境する日本語

小野正樹（筑波大学）

要 旨

本研究は日本語が、日本語母語話者と非母語話者にわかりやすい日本語とは何かを探ることを最終目標として、中国語母語話者、ロシア語母語話者の嗜好する日本語表現を観察するものである。日本語は、今に至るまでに、母語話者には外国語との接触により、また非母語話者にも積極的に使用されることで、日本語の多様性に与してきた。多文化共生社会、SDGs の目標に向けても、伝統的かつ慣習的な日本語のみならず、非母語話者の日本語に注目することで、わかりやすい日本語とは何かの可能性を論ずる。

キーワード: 構文、語彙、ヴォイス、接続詞

1. はじめに

国際化が進み、言語が一つの地域や国の同邦人だけの言語であったり、地域的にも一言語だけで社会生活全般のコミュニケーションできることは希有となっている。大学等の高等教育、グローバル企業、オリンピックなどの国際的組織やイベントだけではなく、現代では市民生活一般に多言語・多文化社会になっている。こうした日本社会を維持・発展させるためには、日本語は欠かすことができないであろう。もちろん、英語の果たす役割は大きく、筆者はそれを否定するものではない。文部科学省（2000）の方針を引用しておく。

- (1) 国際共通語としての英語である。グローバルに情報を入手し、意思を表明し、取引をし、共同作業するために必須とされる最低限の道具である。もちろん、私たちの母語である日本語は日本の文化と伝統を継承する基であるし、他の言語を学ぶことも大いに推奨されるべきである。しかし、国際共通語としての英語を身につけることは、世界を知り、世界にアクセスするもっとも基本的な能力を身につけることである。

「21 世紀日本の構想懇談会報告」21 世紀日本の構想日本のフロンティアは日本の中にある－自立と協治で築く新世紀－（抜粋）

英語だけでは日本という国を維持することはできない。例として、筑波大学で英語で学位が取れる学士プログラムでも、日本語科目が修了要件に含まれているし、市民社会という枠組みで考えても、英語だけでは緊急時を含めて情報伝達できなく（佐藤 2016）、市民社会の言語ツールとしての日本語と、高等教育や緊急時の英語は共存していくものと考えられる。当然ながら、英語以外の多言語から学ぶ多様性は非常に大きいものである。

日本国内の日本語の位置づけについては、近代国家の共通語はどうすべきかという議論が多々あった。考え方を分類すると、日本語で貫く、他言語を共通語にする、ハイブリッド的に多言語社会の実現を図るということになるだろう。日本語を共通語に据えるにしても、「やさしい日本語」（弘前大学人文学部社会言語学研究室）のような、人工的に加工した日本

語の有効性も主張されている。

2. 近代以降の日本語の位置づけをめぐる考え方

日本語の代わりに他の言語を共通語に据えるという考えは、日本の近代化政策で大きな議論であった。前島密の漢字廃止論（「漢字御廃止之議」（1866））、福沢諭吉の漢字制限論「文字之教」、森有礼の英語公用語化論（1872）、西周のローマ字化論（1874）、島崎藤村（1872-1943）のフランス語公用論、志賀直哉「国語問題」（1946）がその代表的なものである。また、日本語自体にしても、話し言葉と書き言葉の乖離を解消するための原文一致運動（二葉亭四迷、山田美妙他 1887 年頃）などがある。森有礼の英語公用語化論に対しては、アメリカの言語学者 William Dwight Whitney からの反対意見があったとされている。

- (2) 『一國の文化の發達は、必ずその國語に依らねばなりませぬ。さもないと、長年の教育を受けられない多數の者は、たゞ外國語を學ぶために年月を費やして、大切な知識を得るまでに進むことが出来ませぬ。さうなると、その國には少數の學者社會と多數の無學者社會とが出来て、相互ににらみあひになつて交際がふさがり、同情が缺けるやうになるから、その國の開化を進めることが望まれなくなります。』

土屋道雄（2005）『國語問題論争史』（玉川大学出版部）より引用

21 世紀になっても、2014 年にノーベル物理学賞を受賞した中村修二氏に以下のコメントがある。

- (3) 「日本はグローバリゼーションで失敗していますね。携帯電話も日本国内でガラパゴス化している。太陽電池も国内だけです。言葉の問題が大きい。第 1 言語を英語、第 2 言語を日本語にするぐらいの大改革をやらないといけない」

朝日新聞 2014 年 10 月 18 日

社会の変化に対応すべく、日本語をどのように位置づけるかについて、一部の”知識人”を中心に議論されてきた。しかしながら、21 世紀の現代社会に目を向けると、日本語の使用者は日本で生活する人全体の問題でもあり、市民社会の課題と言える。

3. 日本語使用者

朝日新聞『天声人語』（2019 年 2 月 25 日月曜日）の記事を紹介する。

- (4) 日本兵が残した日記を翻訳する。海軍で日本語を学んだドナルド・キーンさんを待っていたのは、そんな仕事だった。軍事的な情報を探るのが狙いだったが、読みながら内容に引き込まれた▼部隊が壊滅し、7 人だけ残されたという記述があった。それでも新年を祝おうと 13 粒の豆を分け合っていた。戦闘への恐怖や、人を殺すことへのためらいもつづられていた。そんな日記を書き、死んだ人たちこそが「私が初めて親しく知ることになった日本人だった」。後の著書で回想している。▼戦後、日本文学

の研究をするようになったキーンさんの仕事は網羅的であった。古典や現代小説の翻訳を重ね、古代から続く文学史を一人で書き、日本人の美意識を論じた。そんな中で目を引くのが日記への思い入れである。▼『百代の過客』で、紫式部や石川啄木などあまたの日記を扱った。日記が文学として読まれる国は日本以外にほとんどなく、気持ちを込めた日記こそが私小説になったと論じた。洞察には戦時下の体験が息づいている▼親交の深かった作家の安部公房は「新大陸発見」のコロンブスにキーンさんを例えて、こう書いた。「あいにく大陸ではなかったが、日本文学という未知の群島に辿り着いてしまった冒険家なのである」。群島で見つけた魅力の数々を世界へ発信してくれた▼キーンさんがきのう、96年の生涯を閉じた。日本の読者にも、日本文学の底にあるものを再発見させてくれる。そんな冒険に終止符が打たれた。

https://www.asahi.com/articles/DA3S13908497.html?iref=com_rensaipage_upper_prev
<https://www.asahi.com/articles/ASM2S35KFM2SUCLV003.html>

日本語の使用者は、日本人だけではなく、日本語を世界と結びつけるのは、むしろ非母語話者の役割が大きい。日本語教育においても「留学生 10 万人計画」(1982)、「留学生 30 万人計画」(2008)から、「外国人人材の受け入れ拡大に向けた出入国管理及び難民認定法改正」(2018)と、外国人受け入れには拡大が見られ、高等教育の日本語、生活者の日本語、年少者の日本語、継承語としての日本語など様々な日本語の必要性がある。

4. 誤用から寛容へ

日本語は常に変化している。古語に見られた二重敬語は現代日本語では誤用とされていることはその代表的な例だが、1906年に発行された夏目漱石の『坊っちゃん』にしても現代語訳(『現代語で読む坊っちゃん』現代語で読む名作シリーズ)が発行され、そこでは補助動詞表現の使用が増えていることが報告されている(澤田 2016)。使役述語文でも、現代では非生物が、使役者の役割を果たしている。

(5) 京アニの放火事件が中国の若者を心から悲しませた。

<http://news.searchchina.net/id/1681393?page=1>

「京アニの放火事件に中国の若者は心から悲しんだ」という表現の方が伝統的と思われるが「放火事件が悲しませた」という無生物主語文が現代では散見される。おそらく、「そのニュースに彼は悲しんだ」から、「そのニュースが彼を悲しませた」が現代日本語として定着したのは、英語表現の「The news made him sad」の影響によることも外国語の接触が日本語の変化を与える要因とも考えられる。こうした表現が、当初は誤用とされても、次第に日本語の中で認められるようになっていく。誤用については、「母語干渉」(張 2001)(日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉 20 例)「誤用は、単に排除し矯正すべきものではなく、習得過程で必然的に生じる」(松崎 1999)という考え方もあったが、誤解を招く表現でないならば、新たな日本語として認めるべきではないだろうか。英語にお

いては、World Englishes という、地域によって異なる英語が存在していることは、大言語の特徴である。

5. 中国語母語話者の嗜好表現

楊逸は中国語を母語とするが、日本語で作品を発表する作家である。2008年に「時が滲む朝」で第139回芥川賞受賞している。ここでは『獅子頭(シーズトオ)』(朝日新聞出版、2011年)の作品を観察すると、日本語母語話者に見られない表現が多々ある。そこで、本作品には、中国語母語話者特有の日本語があると考え、中国語母語話者の嗜好表現を探る。

(6) 頭を大連に残して、手足だけ日本に行っちゃって大丈夫かな。(p. 121)

日本語でも「頭を残す」という表現は「肩を低くするぐらいの意識で構え、いっぱい体重移動して、頭を残して振りきる。」(川野美佳(2001)『GOLF DIGEST』ゴルフダイジェスト社)のような表現は見られるが、何を主語とするかというメタファー研究にも有益な表現と言えよう。

また、使役表現の多用についても目についた。

(7) 骨をつまんだり、腰を後ろに曲げさせたりと、黄先生の手の動きは容赦ない。しまいに首まで後ろに捻って回された。(p. 18)

(8) 雲紗は一筋の髪を頬に靡かせながら、笑みを湛えた涼しげな目を光らせている。(p. 69)

そこで、ヴォイスに関わる表現数を国立国語研究所「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」から、使役に関わる表現数を他の地域の学習者と比較した。

表1 日本語学習者のヴォイス表現の実数
国立国語研究所「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」より

	中国	台湾	韓国	ロシア
られ	177	156	125	113
させ	33	23	15	20
助動詞 れる	189	231	159	113

6. ロシア語母語話者の嗜好表現

日本語学習者には、学習者の母語からの干渉、語用論的転移などが見られることは当然である。市川(2000)では、ロシア語母語話者の誤用として、以下の記述がある。記号「∅」は不使用、括弧()内の「→」は市川による正用の表現である。

(9) もう時間ではないですか。さて (→さあ)、始めましょう。p. 16

- (10) 知らないふりしている。だが (→しかし/でも)、知っていると思う。 p. 108
- (11) これは間違っている。つまり (→ \emptyset)、私の意見で \emptyset (→は) これはあっていません。 p. 120
- (12) この部屋にあるパソコンは九次から五次まで使えます。ところが (→ただし) 土曜日だけ \emptyset (→は) 9時から12時までしか使えません。 p. 142

ロシア語母語話者は接続詞を好む傾向がある。筆者は勤務大学で留学生に日本語教育を行っているが、日本語学習者（上級）レベルのデータを見ると、接続詞の使用が多いことから気がついた。次の(13)は日本語上級者を対象としたクラスでの参加者の感想を述べたものである。

- (13) 他の授業にも勉強している狂言の日本語も面白いもので、この授業で見た「棒縛り」がとても気に入って、狂言に対する関心も更に深くなった。実際に見てみたくなった。最後の二つのテーマになった方言と様々な文字も新しい情報が多かった。例えば、さつまの方言を初めて聞いた。そして、ドラマの主人公が話していた方言も普通の日本語にあまり似ていないので、本当にいい経験になると思う。まとめとして言えるのは、このコースには確かに、様々な日本語を勉強できたということである。

(ロシア語母語話者 2019年1月28日)

下線を引いた箇所が、接続詞に該当するものである。そこで、国立国語研究所「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を利用して、接続詞の使用頻度を調査した。調査対象の接続詞は表2のものである。

表2 調査対象とした接続詞

種類	接続詞
逆接	しかし、しかしながら、けれども、けれど、けど、でも、のに
順接	それで、だから、そのため、したがって、ゆえに、すると、それなら、それでは
並列	および、また
添加	そして
対比	反対に、一方
選択	または、それとも、あるいは、もしくは
説明	なぜなら
補足	ただし、実は
言い換え	つまり、要するに
例示	たとえば、例えば
注目	特に
転換	ところで

コーパス調査の結果を表 3 に示す。

表 3 母語別接続詞の使用数（単位は実数）
 国立国語研究所「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」より

	ロシア語	中国語	韓国語
逆接	1,779	1,225	2,491
順接	302	250	218
並列	32	57	92
添加	0	8	8
対比	0	4	1
選択	6	19	11
説明	3	12	16
補足	107	61	50
言い換え	19	2	4
例示	244	87	34
注目	11	43	28
転換	24	13	35
合計	2,527	1,781	2,988

母語別に学習者の使用傾向は異なるが、ロシア語母語話者についてみれば、「順接」「補足」「言い換え」「例示」が、中国語母語、韓国語母語学習者と較べて使用頻度が高いことがわかる。こうした接続詞の多様は、その母語話者の言いたいことと結びつくのではないだろうか。「補足」の表現形式である「実は」の用法を市川(2000)から引用する。

「実は」：基本的には、話者が S1 という現在の状況に対して、対比的に本当の事実を打ち明ける表現である。したがって、自分に関することが多い。

市川(2000)

本調査からはロシア語母語話者には対比的に表現することや、自分に関する表現内容を嗜好する可能性がある。このことは、日本語の多様性を示すものと言えよう。

7. まとめ

言語は話者の思考内容を伝える手段である。脳内言語を、外国語に置き換える場合に、当然ながら、母語に近い脳内言語の表現が反映されると考えられよう。日本語が、日本語母語話者のみの言語ではなくなっている現在、多様な日本語が存在する。こうした日本語は誰に発せられるのか、また、AIが発達している現在、人間のみならず、自動翻訳などの機器に繋がることも予想される。母語話者にわかりやすい日本語、非母語話者にわかりやすい日本語、AIにわかりやすい日本語、これらが同一である保証はない。むしろ、多様な

日本語があり、それを理解できる言語能力が求められおり、母語話者にも様々な日本語があることを理解して欲しいというのが社会実装の課題で。本論の主張である。

参考文献

- 市川保子(2000) 『続・日本語誤用例文小辞典-接続詞・副詞』 凡人社
- イ・ヨンスク(1996) 『「国語」という思想 : 近代日本の言語認識』、岩波書店
- 尾崎光弘(2016) 「志賀直哉「国語問題」(昭和二十一年四月)」『尾崎光弘のコラム 本ときどき小さな旅』 <https://blog.goo.ne.jp/3bi4430>
- 小野正樹・李奇楠編(2016) 『言語の主観性 ―認知とポライトネスの接点』、くろしお出版
- 近藤安月子(2018) 『「日本語らしさ」の文法』、研究社
- 杉崎夏夫(2017) 「明治時代語の一考察 : 言文一致と標準語教育と新聞の文体の関係を中心に」『武蔵野教育學論集 2』 47-56
- 佐藤和之(2016) 「外国人被災者に情報を伝える「やさしい日本語」表現～プラグマティック文法研究試論～」、日本語学会 2016 年度春季大会シンポジウム予稿集
- 澤田淳(2016) 「「行為の方向づけ」の「てくる」の対照言語学的・歴史的研究-移動動詞から受影マーカ―へ」小野正樹・李奇楠編『言語の主観性 ―認知とポライトネスの接点』、くろしお出版
- 張麟声(2001) 『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉 20 例』、スリーエーネットワーク
- 土屋道雄(2005) 『國語問題論争史』、玉川大学出版部
- 外山滋比古(1987) 『日本語の論理』、中央公論社
- 松崎寛(1999) 「韓国語話者の日本語音声一音声教育研究の観点から一」『音声研究』第 3 巻第 3 号、日本音声学会
- 横山詔一・杉戸清樹・佐藤和之・米田正人・前田忠彦・阿部貴人編(2016) 『シリーズ社会言語科学 2 社会言語科学の源流を追う』、ひつじ書房

データ

- 朝日新聞『天声人語』 2019/02/25
- 国立国語研究所「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」
- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」
- 川野美佳(2001) 『GOLF DIGEST』 ゴルフダイジェスト社
- 文部科学省「21 世紀日本の構想」懇談会(2000) 『「21 世紀日本の構想懇談会報告」 21 世紀日本の構想日本のフロンティアは日本の中にある―自立と協治で築く新世紀― (抜粋)』
- 楊逸(2011) 『獅子頭 (シーズトォ)』、朝日新聞出版

(小野正樹、筑波大学人文社会系教授、ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp)